

読書推進運動

No. 702

- ★「野間読書推進賞」候補者推薦のお願い(2頁)
- ★「読み聞かせ現場と著作権」について(5頁)

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子
定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる



東京子ども図書館 施設リニューアルのその先へ

多くの人に支えられてのリニューアル

公益財団法人 東京子ども図書館理事 長

はりかえけいこ
張替恵子

1950年〜60年代に始められた都内4つの家庭文庫が合流し、1974年に設立された東京子ども図書館。以来、子どもの本と読書を専門とする私立図書館として、児童室や資料室の運営、講演・講座の開催、お話集やブックリストの出版など、さまざまな活動をおこなってきた。

図書館とはいうものの、独立した建物はなく、長らく「借り間暮らし」を続けたが、設立20周年の募金で1億3000万円を超えるご支援が寄せられ、1997年、中野区江原町に地下1階、地上2階、レンガ造りの「自分たちの建物」が完成。子どもの図書館講座や研修生制度など活動の幅を広げてきた。

しかし、2020年春にコロナ感染が広がり、休館や在宅勤務により人流が途絶えたことや、猛暑による高温多湿のせいで、地階の資料室蔵書にカビが発生。出版物の在庫を置く集密書架の増設やエレベーターの交換も差し迫った問題となり、大規模な改修に踏み切ることになった。最大の懸案である工事費用は通常のご寄付や事業収益では賄えないため、初のクラウドファンディングに挑戦することになった。期間は、設立50周年記念に制作したドキュメンタリー映画「松岡享子 お話の種まきをした人」の完成披露上映会を催した2024年11月18日から翌年1月31日まで。ありがたいことに、子どもと本に関心を寄せる全国の方々から応援をいただき、当初の目標額3300万円は1月半ば

に達成、最終的に5516万円が集まり、資料の燻蒸も行えることになった。

このたび、1997年の新館建設に関わった設計・施工チームが再結成。設計者の草野光廣さんは、日野市立中央図書館や松岡名誉理事長の自宅建設にも関わり、公共図書館の意義や当館の役割に深い理解をおもちの方だ。私たちの要望を柔らかく受け止め、相談を重ねて設計図が固まった。

その過程は4月20日発行の当館機関誌『こどもとしゃかん』189号をご参照いただきたい。工事は順調に進み、今年1月末からの内覧会を経て、2月7日からリニューアルオープン。今回の改修は、壁や柱など躯体を改造せずに、本棚や机など家具を入れ替え、

配置を変えることが中心。空調設備が強化された資料室は、以前より低書架が増え、見晴らしも風通しもよくなった。新設した「松岡享子コーナー」には著訳書や手作り品が並ぶほか、朗読会などのさまざまな催しもおこなえる。1階ホールは、今までどおり講演やお話会などの集客スペースとなるが、それが無い時間帯には喫茶スペースとして自由にご利用いただける。入口近くには「受付&ミニショップ」を置き、お客様を速やかにご案内できる体制を整えた。奥、児童室寄りには海外作品の原書や点字本などが手に取れる「多言語・バリアフリーコーナー」も新設した。

2月以降、各地からの見学者が増え、講習会・講座修了者を中心に、勉強会や公開お話会に活発にご利用くださっている。子どもと本をめぐる環境は順風満帆とは言い難いが、新しい器での出合いや学びが、利用者・職員それぞれに活動に豊かさをもたらしてくれることを願っている。

第56回(2026年度)

『野間読書推進賞』

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してまいりました。



野間読書推進賞賞牌

この賞は、1969年、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年と2023年にそれぞれ、2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年より、「野間読書推進賞」とあらためました。

本年度も次に掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願いいたします。

体を再度ご推薦くださってもかまいません。再推薦の際は、前回推薦時からの継続性だけでなく、活動の深化もご紹介ください。

4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦、および、関連機関への候補者推薦案内を5月中旬に依頼します。

候補者の心当たりがある方は、各団体・機関を通してご推薦ください。個人からのご推薦は受け付けておりません。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ (<http://www.dokusyo.org.jp>) でご覧いただけます。推薦の参考としてください。

5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用のときは、当協議会にご請求ください。(Word, Excel形式のファイルもご用意します)。

添付資料は返却にも応じません(希望者のみ)。

6 推薦書類送付先 締切

公益社団法人
読書推進運動協議会
「野間読書推進賞」係
〒101-0005
東京都千代田区神田神保町
1-32 出版クラブビル6階
TEL 03-52244-5270

推薦締切

2026年7月31日(金)消印有効

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に野間読書推進運営事業委員会による選考準備委員会で候補者を絞り、9月中旬に3名の選考委員からなる選考委員会で団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

8 選考委員(五十音順)

- 植松貞夫 公益社団法人 日本図書館協会 理事長
- 黒木義博 公益社団法人 全国学芸書館協会 理事長
- 野上 彰 児童文学・文化研究家
- 児童図書評議会 副会長

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

10 贈呈式

2026年11月6日(金)
出版クラブホールにて(予定)
出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」執筆者のみなさんなどをお招きします。

昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

近年、個人の部へのご推薦が少ない傾向にあります。地域文庫を長年運営されている方、グループの中心となっている方、複数のグループにまたがる活躍をされている方などもぜひ、ご推薦ください。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

2026年度公益社団法人読書推進運動協議会 定時総会開催のお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協議会では、左記のとおり2026年度の定時総会を開催いたします。

一、日時 2026年6月22日(月)
午後3時～4時30分
出版クラブビル会議室
(東京都千代田区
神田神保町1-32)
03-5577-1511

- 一、議事
 - ・第1号議案
2025年度事業報告書と決算報告書承認の件
 - ・第2号議案
「役員交代」承認の件
 - ・第3号議案
2026年度事業計画書と収支予算書報告の件
 - ・連絡事項

*5月下旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。はがきのご返信と当日のご参加、または委任状のご提出を、よろしくお願ひ申し上げます。



出版クラブビル

著作権を学び、障がい者サービスの充実を

■音訳のための著作権を学ぶ

公益社団法人 日本図書館協会は、6月28日(日)に、オンラインで「音訳者・音訳ボランティアのための著作権セミナー」を開催する。

このセミナーは、同協会の障害者サービス委員会が企画・運営するもので、対象は録音資料を製作している音訳者・音訳ボランティア、障がい者サービスを担当する図書館職員ほか。

内容は、①「録音図書製作に必

要な著作権法条文とその解説」講師 藤田晶子(全国音訳ボランティアネットワーク代表) ④「スタートアップと国会図書館へのデータ提供、千葉朗読奉仕の会せせらぎの活動について」講師 太田敬子(千葉朗読奉仕の会せせらぎ)ほか(敬称略)

②「政令指定グループへの登録及び国立国会図書館の視覚障害者用データ送信サービスのデータ提供を考えている方のために、国立国会図書館障害者用資料検索(みなサーチ)の紹介」講師 杉田正幸(国立国会図書館) ③「全国音訳ボランティアネットワークの活動紹介及び図書館・ボ

ランティアに望むこと」講師 藤田晶子(全国音訳ボランティアネットワーク代表) ④「スタートアップと国会図書館へのデータ提供、千葉朗読奉仕の会せせらぎの活動について」講師 太田敬子(千葉朗読奉仕の会せせらぎ)ほか(敬称略)

参加には事前の申し込み(締め切り 6月18日(木))と、参加費(1100円)が必要。内容の詳細と申し込み方法の確認、申し込みフォームは、日本図書館協会サイト内の <https://www.jlil.or.jp/s/train/2026onyaku/> をご覧ください。

国際アンデルセン賞発表

日本でも愛読されている作家・画家が受賞!

国際児童図書評議会(IBBY)は、4月13日(月)、イタリア・ボローニャブックフェア会場において、2026年の国際アンデルセン賞の受賞者を発表した。

国際アンデルセン賞は1953年に創設され、「小さなノーベル賞」とも称されている。2年に一度、子どもの本の最高の作り手に贈られる。今回はIBBYに加盟する44の国と地域から、78人の候補者がノミネートされていた。日本からは日本国際児童図書評議会(JBBY)より、作家賞に富安陽子さん、画家賞にあべ弘士さんが推薦されていた。

2026年国際アンデルセン賞

●作家賞
マイケル・ローゼン (イギリス)

●画家賞
蔡卓 (さいこう) (中国)

マイケル・ローゼンさんは、こ



マイケル・ローゼンさん

れまでに子ども向けから大人向けまで200冊以上の本を発表。『ぎょうはみんなでクマがりだ』(評論社)、『悲しい本』(あかね書房)、『ONEDAY』(鈴木出版)など、翻訳された作品も多い。大学で児童文学を教えたり、BBCのラジオ番組の司会を務めたりと、はば広く活躍している。

蔡卓さんは、独学で絵を学び、40冊以上の絵本を出版。中国の児童書界をリードしてきた。こちらにも、『ふしぎなはごろも』(徳間書店)など翻訳された絵本もあるほか、松岡享子さんと組んだ『花仙人』(福音館書店)など、日中の懸け橋となる作品でも知られている。

なお、同賞国際選考委員会が選ぶ「各国での翻訳出版を推奨する卓越した21冊」に、あべ弘士さんの『どうぶつえんガイド』(福音館書店)が選定されている。



蔡卓さん

■公益財団法人伊藤忠記念財団 読書バリアフリー研究会

読書バリアフリーをさまざまな視点から考える

公益財団法人 伊藤忠記念財団

は、「読書バリアフリー研究会 特別研修『読書のバリアフリーをすすめるために』」を開催する。本研修は8月6日(木)〜10月28日(水)に、オンデマンドにて配信される。(6月21日(日)、国立国会図書館 国際子ども図書館(東京都)で開催収録)

プログラム

- ① 読書バリアフリー法制定から7年、今日までの成果は？ 講師 宇野和博(筑波大学附属視覚特別支援学校)
- ② 出版社のアクセシビリティへの取り組み 講師 木村匡志(小学館)
- ③ 外国にルーツのある子どもたちと読書 講師 新居みどり(NPO法人 国際活動市民中心)
- ④ 子ども向けバリアフリー資料の探し方と使い方(国立国会図書館 国際子ども図書館)
- ⑤ 伊藤忠記念財団の電子図書普及事業について
- ⑥ パネルディスカッション 「読書バリアフリーのこれから」 パネリスト 宇野和博 木村匡志 新居みどり コーディネーター 成松一郎(有限会社)

社 読書工房(敬称略)

この研究会は、さまざまな障がいのある子どもたちに読む楽しさを届ける環境づくりを学ぶ機会として開催。対象者は、学校教職員・図書館職員・ボランティアなど。今回は、読書バリアフリーをめぐる制度の最新動向を共有するとともに、出版社の取り組みや多文化共生の推進、図書館のサービスなど、多様な立場からの実践を通じて、読書支援の新たな視点や連携のあり方を考える。

参加費は無料だが、事前の申し込み(6月22日(月)〜7月30日(木)先着順)が必要。申し込み方法など詳細は財団ホームページまで。

また、同財団では「読書バリアフリーフォーラム 東海」を7月25日(土)に愛知県図書館で開催する。こちらは、当日オンラインでの配信も予定。詳細は随時、同財団ホームページに掲載される。

●伊藤忠記念財団ホームページ
(読書バリアフリー研究会)
<https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/ebook/barriere/>

■「子どもの読書活動推進フォーラム」

全国249件の優秀な子どもの読書推進活動を表彰

文部科学省と国立青少年教育振興機構は、4月23日(木)、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)で「令和8年度『子ども読書の日記念』子どもの読書活動推進フォーラム」を開催した。

今年度は「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)」として合計249件が文部科学大臣表彰を授与され、特別講演とポスターセッションが行われた。

特別講演は酒井邦嘉氏(東京大学大学院 総合文化研究科 教授)の「脳科学から見た読書のすすめ」。

酒井氏は、読書体験が脳に刻まれることは、子どもたちの成長と心の発達を支えることを紹介。本を再読して解釈を深めること、深めた解釈をことばにして発信することが大切であると述べた。また、「AIによる生成が急増しているが、AIは既存のデータを使って

■学校図書館整備推進会議 総会

学校図書館についての自治体調査を次の5か年計画の資料に

学校図書館図書整備費の予算化運動と子どもの読書推進を目的とする学校図書館整備推進会議は、4月14日(火)に総会を開催し、2025年度の事業報告・決算報告と2026年度の事業計画案・予算案について討議、決定した。

2025年は、「図書館改革プロジェクト」活動計画にそって、活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟の合同総会への参加や、シンポジウム「特別支援学校の教育環境の現状とその改革に向けて」など、4つの集会活動を行った。また、他団体と連名で、2025年度の第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」による図書費の予算化を、全国の自治体首長、教育委員会教育長あてに行っている。

同会議の2026年度事業では、「図書館改革プロジェクト」

の生成。人間の脳による生成は、新たなものを生み出す。そのためには読書が必要。「文章をAI生成に頼ることは、文章力の低下だけでなく、作家へのリスベクトの欠けにつながる」「本を買い、作家を育てることは、文化への投資」などと語った。

ポスターセッションブースでは、19の被表彰者代表や読書活動に係る団体、企業などの実践をポスターや資料で紹介。各ブースでは表彰された団体の代表者や、一般参加者たちが出展者に質問するなど、実践の交換、交流が繰り広げられた。

の推進として、「学校図書館図書整備等5か年計画」の継続と拡充に関する各界連絡会や、学校司書を招いての座談会など、現状の問題の共有と改善に向けての提案を模索していく。5月には自治体を対象に、地方交付税措置による学校図書館予算化の状況の実態についてアンケートを行い、第7次5か年計画案作成の資料とする。同時に、学校図書館における図書費および新聞配属の実行、学校司書の配置促進を求める要請文を自治体へ送るなど、学校図書館整備を充実を図る。

■著作権について考える

絵本・児童書の読み聞かせと著作権 「読み聞かせ応援隊」

一般社団法人 日本児童出版美術家連盟
著作権部長 ぴらっぴい

日本児童出版美術家連盟(略称:童美連)は、1964年の創立以来、一貫して児童書の画家の著作権を擁護する活動を柱としてきました。その活動のひとつとして、昨年、弊団体のWebサイトに、絵本・児童書の読み聞かせのルールをチャートにした「読み聞かせ応援隊」ページを完成、設置することができました。これは、読み聞かせを制限するものではなく、ルールを守ったうえで読み聞かせをどんどんしてほしい、という願いを込めた内容になっています。

●読み聞かせにおける著作権啓発の歴史/ガイドラインについて

2006年5月に、童美連、日本書籍出版協会、日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会が構成する児童書四者懇談会(現:児童書出版者・著作者懇談会)は、『読み聞かせ団体等による著作物の利用について』というガイドラインを発表しました。これは、読み聞かせの振興を願って作成され、そ

の内容は、読み聞かせに関連する著作権法や、児童書出版業界における慣例や考え方をわかりやすく整理したものであり、その内容は今も変わることのないものです。

●Web版「読み聞かせ応援隊」について
ガイドラインの公開から時代が流れ、デジタル時代を迎えると、今までになかった新たな形の権利侵害が一般の人々によって無自覚に行われるようになりました。具体的には、全編読み聞かせの動画や、紙芝居仕立てなどの改変動画

のネット配信であり、許諾が必要な利用にもかかわらず無許諾でインターネット上に配信されるようになったのです。

ガイドライン公開当初の時代と違い、この権利侵害はネットを通じて全世界を対象として繰り返し行われることになり、著作権者が被るダメージも大きく、当初は、作家が出版社を通して配信者一人ひとりに注意喚起をするという、いちたちごっこでした。

この状況を乗り越えるには、一般社会へのわかりやすい著作権啓発が必要だ、と感じていたと同時に、読み聞かせの現場のみならず、作家側からも、デジタル時代に適応する、よりわかりやすいガイドラインが求められるようになり、ガイドラインに基づいて、「読み聞かせ応援隊」Web版および紙版パンフレットの作成を開始いたしました。制作にあたっては、

1..わかりやすさを追求し、Q&

Aチャート式にした
2..親しみやすいビジュアルにした
3..Webサイトに掲載し、誰でも利用できるようにした

現在では、全国各地の図書館、学校、マスコミなどから、紙版パンフレットを送ってほしいというご要望もいただけるようになりました。こうした手応えが感じられるようになったのは、読み聞かせの方々の法遵守の精神や著作権意識の高さと、作家への深い配慮によるものだと感謝しております。

絵本は、膝の上で読んでもらうもの、暖かい体温を感じ、ことが揺れる、愛おしい時間を紡ぐため、作家たちは創作活動をしています。そうした創作者の思い、意図が尊重される文化を、読んでくださるみなさまと共に作れる社会であってほしいと願っております。ぜひ、一度、童美連Webサイトより「読み聞かせ応援隊」ページをご覧ください。また、制限がある場合でも、作者に許諾を取ることにより可能になる場合もあり

ます。そのための「著作物利用申請書」も、ダウンロードすることができます。

【読み聞かせ、こんな時どうすね?】

Q. オンラインでの読み聞かせの注意点は?

A. 授業目的であり、あなたの所属する団体がSARIPRAS(一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会)に登録されていれば作者の許諾は必要ありません。ただし、「録画」をする場合にはこのかぎりではありません。リアルタイム配信のみ無許諾で行うことができます。

Q. 絵本の画面をスキャンしてパソコンに保存し、読み聞かせを行うことは可能ですか?

A. 本のページをスキャン・撮影してPCに保存する時点で権利者の許諾が必要です。紙の本を、物理的にカメラやOHPなどで物理的に拡大して見せることは可能ですが、おはなし会などで必要な場合には、許可を取るのが最も安全です。

Q. ペーパーサートや紙芝居にした読み聞かせは?

A. 個人利用の場合は問題ありません。おはなし会などで上演する場合には、作者の許諾が必要です。



童美連「読み聞かせ応援隊」パナー
<https://www.dobiren.org/>



童美連「読み聞かせ応援隊」QRコード

優良読書グループの歩み (5)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

絵本の家

「ゆきぼうし」

代表者 大平 光代

新潟県魚沼市

〈推薦〉

新潟県読書推進運動協議会

このたびは、絵本の家「ゆきぼうし」を、優良読書グループに選んでいただき、スタッフ一同たいへん喜んでるところです。ありがとうございます。

森に囲まれた絵本の家「ゆきぼうし」は、新潟市から移住した大塚中(あたる)、千恵夫妻の熱い志と、それに賛同する多くの有志の力やカンパを受けて、1995年8月6日に開館しました。子どもたちには平和がなくてはならないという、中さんの強い思いのもと、急ピッチで施工を終わらせ、8月6日に間にあわせてオープンしたそうです。

また、「ゆきぼうし」のテーマを「自然と子どもと絵本」とし

ました。子どもがすくすくと力を蓄え、伸ばし、成長していくためには、自然にふれ、体感し、経験すること。また、一方で書物にふれることで、美しいことばや感性が育まれ、想像、空想の世界へと入りこむこと。自然と読みものの両輪が必要なのだという思いから、「子ども」の両側に「自然」と「絵本」のこぼれを置いていきます。

館長だった千恵さんは、高齢と病の理由から2014年に引退され、翌年からは、スタッフ全員で志を受け継いできました。代表、副代表を置き、あとは以前と変わらず、相談委員、運営委員、事務局、会計監査を置いています。運営資金は「ゆきぼうし」の活動に賛同して下さる方からの賛助会費と助成金が主になります。

読書活動は、千恵館長在籍のときには講演会、絵本原画展、わらべうたの会、昔話の会、おはなし会など実施していましたが、千恵さんの引退後は、こども園や小学校でのおはなし会、「ゆきぼうし」

の訪問時(遠足など)でのおはなし会などが主となり、回数が少なくなっています。森(自然)がある場所のため、春から夏は森整備に追われてしまい、1年を通してなかなか読書活動が深められない状況となっています。

創設者の館長が20年間、スタッフが10年間、運営を継続してきました。途中、NPO組織の方がよいか、経営、運営を企業や他団体に委ねるかなど検討したこともありましたが、スタッフ自身が無理なく楽しみながら参加し、少しずつ進めていく形態が私たちにはあつているということで、30年間任意団体のまま、活動を続けていきます。スタッフの居場所、または

赤ちゃんからお年よりまでがホッとできるよい居場所になるように活動できたらと思っています。ただ、スタッフ数がなかなか増えない現状もあり、どうしたらさまざまな人たちが関わってくれるかが課題です。

はなみずき

代表者 村木 陽子

岡山県岡山市

〈推薦〉

岡山県読書推進運動協議会

約25年前、岡山市立妹尾公民館に絵本好きが集まり、絵本についての勉強会が生まれました。その後、会員の提案により「はなみずき」と名づけられたこのグループは、岡山市立の小・中学校で学校司書を務めた永島倫子さんが立ちあげたものです。会員は岡山黒丸絵本研究会・SLA絵本研究部会の元受講生、元教員、元保育士、児童クラブ指導員、朗読者、絵本愛好者が集い、ともに絵本の学びと実践を深めてきました。

運営は、月1回の定例会で絵本の紹介、作品理解のための読み深め、作家研究などを行い、実践に生かしています。



森に囲まれた「ゆきぼうし」には、熱い思いと絵本がいっぱい



これからも学びと実践を積み重ねていく

実践の場では、乳幼児施設、子ども園、小・中学校などでの読み聞かせに加え、岡山市の民生委員さんと妹尾公民館長さんからの依頼があつて、高齢者への絵本の読み聞かせにも取り組むようになりました。どの会でもブックトークの手法を借りてテーマを立て、それに関連する絵本6〜8冊の全体を鑑賞していただき、テーマに迫ってもらえる工夫もしています。

こうした活動の中で、「絵本は子どものものだけではない」ということが会員にも浸透していききました。テーマや表現方法、画材、文法その他作品に内在する事象などを考えると、対象は子ども

向けに見えても、探っていくとより深いものまで見えてきて楽しめます。これは芸術全般に言える楽しみ方に似ているではありませんか。私たちが得た大きな実りです。

私たちの活動を支えてくださって

きたのは、主に公共図書館で

す。岡山市全域からの取り寄せが

可能な岡山市立浦安総合公園図書

館と、絵本の蔵書が優れている早

島町立図書館、それに会員個人の

蔵書も動員し、取りあげる作品の

枠も広げました。図書館職員の協

力のもと、館内のおはなし会でも

活動を展開しています。月2回の

「かみしばいのじかん」「えほんの

じかん」では、手遊びや歌も交え

て、聴き手の様子を見ながら一緒

に楽しむ気持ちで読み進めています。

コロナ禍後は、2025年の読

書週間にあわせて年2回のイベント

を再開いたしました。テーマにあ

わせた絵本や紙芝居・大型絵本の

読み聞かせと手づくり工作を行

っています。

参加者の反応に喜びを見つけた

とき、私たちが大きなやりがい

を感じます。子どもたちにとっても、

読書の習慣が身につくような実践

でありたいと願っています。

赤松小親と子と読書会 「赤ずきんの会」

代表者 川原 ルミ
佐賀県佐賀市

（推薦）
佐賀県読書推進運動協議会

赤松小親と子の読書会「赤ずき

んの会」は1976年度に、佐賀

県母と子の読書会協議会（現在は

佐賀県親と子の読書会協議会）発

足と同時に発足し、活動を始めま

した。活動歴は2025年度で49

年目になります。

発足当時は、親子で読書を楽し

んでいましたが、その後、佐賀市

立赤松小学校での絵本の読み語



2026年度は活動50年目の節目です！

りや、おはなし会を始めて、「本は友だち」を合言葉に、熱心に読書活動に取り組んできました。私が入会した26年前は、低学年だけに読み語りをしていましたが、高学年の子どもたちからの希望があり、学校側と相談して、全学年に読み語りに入るようになり、今も続いています。

2025年度の会員は14人。小

学生の保護者が3人、あとは卒業

生の保護者や地域の方です。組織

は代表、会計、読み語りの記録送

信係、おはなし会の選書係など、

役割を分担しています。

活動内容は、次のとおりです。

・毎週金曜日朝の読書タイムに

2学年ずつ学級に入つての読み語

り

・5月1年生へ入学おめでとう

おはなし会（授業1時間）

・7月夏のおはなし会（昼休

み）

・11月秋のおはなし会（2年生

から5年生まで、おのおの授業

時間を使って、4回実施。このと

きは先生方にもお薦めの本の紹

介や、読み語りをしてもらいま

す）

・12月クリスマスおはなし会

（昼休み）

・1月11アナウンスコンテストに

出る小学生への読み方のアドバイ

ス

・3月震災についてのおはなし

会と、6年生へ卒業おめでとうお

はなし会（授業1時間）

朝の読み語りやおはなし会で

は人数調整や選書の苦労はあり

ますが、みんなで取り組み、子ど

もたちがおはなしに夢中になっ

ている姿や笑顔を見ることが、

「楽しかった」という感想に、私

たちの方が元氣と喜びをもらっ

ています。

活動歴の長い会員が多いのは、

家族の理解や応援、そして会員

の健康と読書活動への努力の賜

物だと、ありがたく思っており

ます。

コミュニティ・スクールであ

る赤松小学校のご協力ご支援に

も、心より感謝いたします。

諸先輩方がつないでくださった

会を、表彰を励みに今後も末永く

続けていけることを願っておりま

す。



■安曇野ちひろ美術館 展覧会

走り抜ける、緩やかに流れる…
ふたつの絵本の魅力を同時に！

「こどもの読書週間」ポスターを担当する、ザ・キャビンカンパニーの展覧会「ようこそ！ザ・キャビンカンパニー 新収蔵作品展」がつつこにまにあわいな・ゆうやけにとけていく」が、安曇野ちひろ美術館（長野県松川村）で6月12日（金）～9月6日（日）の期間で開催される。

この展覧会は、ザ・キャビンカンパニーの絵本『がつつこにまにあわいな・いつしよだよ。』、星が

あわいな』『ゆうやけにとけていく』の2作の原画の、ちひろ美術館収蔵を記念して開催される。2作の全原画38点が展示されるほか、ラフスケッチや絵本タミーなど制作の裏側や、大分県由布市のアトリエの様子も紹介される。

期間中、同館では、『窓ぎわのトットちゃん』の世界を楽しむ「トットちゃん広場10周年記念展『みんな、いつしよだよ。』」、星が

期間中、同館では、『窓ぎわのトットちゃん』の世界を楽しむ「トットちゃん広場10周年記念展『みんな、いつしよだよ。』」、星が



ザ・キャビンカンパニー『ゆうやけにとけていく』（小学館）表紙 2023年

今年も多数の来場者！
春の上野の恒例行事に定着

■「上野の森親子ブックフェスタ」

5月4日（祝）・5日（祝）、東京都台東区の上野恩賜公園で「上野の森親子ブックフェスタ2026」（主催：子ども読書推進会議／日本児童出版協会）一般財団法人出版文化産業振興財団）が開催された。

風は強かったものの、3日の夜の強い雨は催事スタート時には上がり、今年も好天に恵まれた。催事のメインである、謝恩価格での児童書販売「子どもブックフェス

テーブル」には、昨年を上回る85の出展者を選びすぐりの本を出品。ゴールデンウィークのお出かけ先

に上野公園を選んだ家族連れが熱心に本を選ぶ姿が見られ、また、インパウンドの来場者も興味深く日本の児童書を手にとっていた。

著者のサイン会や同じく上野公園内の国立国会図書館 国際子ども図書館での講演会、読み聞かせ、さまざまなパフォーマンスなど関



大盛況の「子どもブックフェスティバル」

連イベントも数多く実施され、2日間にわたり上野の森に子どもたちの歓声が響いていた。同フェスタの詳細は、次号でお伝えする。

事務局報告（4月）

- ☆3日 機関紙「読書推進運動」701号別冊入稿
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」701号入稿
- ☆6日 公認会計士末局、決算作業
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」701号別冊 別冊 責了
- ☆10日 2025年度 事業・決算報告書、2026年度 事業計画・予算書原案完成
- ☆10日 講義社「吉川英治賞」出席（帝國ホテル）
- ☆14日 6日 3 監事による監査実施。監査報告書作成
- ☆14日 国立国会図書館 国際子ども図書館 前・新館長 来局
- ☆14日 「2026年度 学校図書館整備推進会議」総会出席（出版クラブ）
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」701号、別冊付録「第79回 読書週間」行事報告」出来
- ☆23日 文部科学省ほか「子どもの読書活動推進フォーラム」オンライン出席
- ☆23日 「第31回 日本絵本賞」最終選考会出席（全国家電気館）
- ☆24日 「2025年度 第79回 読書週間」事業報告を文科省に郵送
- ☆24日 「活字文化推進会議」出席（読売新聞東京本社）
- ☆27日 「上野の森 親子ブックフェスタ2026」運営委員会 出席（JPIC）
- ☆28日 2026年度 第1回 常務理事会 開催
- ☆28日 2026年度 第1回 理事会 案内・資料を役員に郵送

編集部&事務局の
ひとこと

●好きな作家のお身内が身近にいたら、人はどう行動するの？

●2年前の4月、帰毛するなり夫が、「Aさんのお子さんが、うちの高校に入学してきた！」と、うれしそうに報告してきました。Aさんの作品のいろいろな場面をふり返り、「Aさん、どのキャラクターに似ているのかな？」「お子さん、この作品に出てくる子どもとそっくりなのかな？」など、夫婦で盛りあがり、「いろいろと聞いてみたいよね」と、言っていたのですが……。

●なにしろ、相手は高校生。親を疎ましく思うこともあるだろうお年こです。お子さんのクラスの化学の授業を担当し、接点もできましたが、「お父さんが作家であることを、いろいろ言われるのも嫌かもしれないし」と、聞きたいことはまったく聞けず、もじもじすること2年。夫はこの4月に、勤務校を異動することになりました。

●3月に異動が発表され、離任のあいさつをし、その後の修了式の日、同僚の先生方や、生徒・卒業生からも、いろいろとアレセントをいただきました。そして……「Aさんのお子さんより、手紙もらった！」。いただいたときに、「実は、お父さんのファンなんだよ」と、やっとお伝えしたそうです。手紙は「あとで読んでください」と言われたため、夕食後に開封。ニコニコと読んで夫を見て、中身を聞くわけにもいかず、「文体、お父さんに似ているのかな？」と、私はひとり、想像するしかありませんでした。（伸）